

講義名	フィールドワーク法			授業形態	
担当教員	西牟田 真希	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

この講義では、社会調査を行う際の必要な問の立て方や調べ方を学び、そのための基本的な概念と方法を学ぶことを目的とする。フィールドワーク法では特に、フィールドワークの技法、参与観察法、聞き取り（インタビュー）調査、ドキュメント分析について、調査事例を中心に授業を進める。必要な知識と調査方法を習得したのち、実際に調査計画にそって調査を実施する。調査後に、調査結果を整理して分析・考察を行い、調査報告書を作成させることを目指す。

到達目標

質的調査の意義を理解して、フィールドワークの技法を習得する。
各自で調査を企画・立案して質的調査を体験したのち、調査報告書を執筆する。

提出課題

単元ごとに授業課題（平常レポート）を実施する。授業課題の各要素を最後にまとめなおして調査報告書（期末レポート）として提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

単元ごとの授業課題（平常レポート）は、実施前に方法やポイントを説明して、実施後に解説を行う。

評価の基準

授業の取り組み姿勢・授業課題（平常レポート）（40%）、期末レポート（60%）により、総合的に評価する。

履修にあたっての注意・助言他

本講義の前に社会調査に関する授業を受講していなくても問題はないが、他の社会調査の科目をあわせて受講するのがぞましい。

教科書

.使用しない。

参考図書

『ラウンド・アバウト フィールドワークという交差点』	神本秀爾・岡本圭史編	集広舎	2016	9784904213650
『ポピュラーカルチャーからはじめるフィールドワーク 人のために』	レポート・論文を書く 園田浩二・池田大臣編	明石書店	2970	9784750354644

その他

岸政良・石岡文昇・丸山里美編『質的社会調査の方法 他者の合理性の理解社会学』（有斐閣、2016）；
箕浦康子編『フィールドワークの技法と実際 マイクロ・エスノグラフィー入門』（ミネルヴァ書房、1999）。

授業計画

1. 本講義の概要と進め方
2. 社会調査とは何か
3. 質的調査の実践（1） 参与観察
4. 質的調査の実践（2） 聞き取り調査
5. 質的調査の実践（3） ドキュメント分析
6. 調査の立案・計画（1）
7. 調査の立案・計画（2）
8. 先行研究を読む（1）
9. 先行研究を読む（2）
10. 調査記録の方法と注意
11. 質的データの整理と分析（1）
12. 質的データの整理と分析（2）
13. 調査報告レポートの作成（1）
14. 調査報告レポートの作成（2）
15. 講義全体のまとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

単元1. テーマ設定・・・自己学習（自文化・異文化について、どのようなことに関心を持つかを検討する・資料やノートを再読し、学習内容を復習する。（1時間）、課題（授業内容を参考にして、各自でテーマ設定を行う。（1時間）×4回）
単元2. フィールドワークの計画・・・自己学習（身の回りの出来事を観察する・資料やノートを再読し、学習内容を復習する。（1時間）、課題（フィールドワークの立案・調査の予約などの準備をする。（1時間）×3回）
単元3-1. フィールドワークの実施・・・自己学習（実施事項や注意点を確認する。・資料やノートを再読し、学習内容を復習する。（1時間）、課題（フィールドワーク調査を実施する。（1時間）×2回）
単元3-2. フィールドノートを書く・・・自己学習（授業内容を参考にして、調査結果をまとめる。・資料やノートを再読し、学習内容を復習する。（1時間）、課題（調査結果とフィールドノートを書く。（1時間）×2回）
単元4. 文献・資料との比較・・・自己学習（各自のテーマに関連する文献・資料を探して理解する・資料やノートを再読し、学習内容を復習する。（文献・資料とフィールドワークを比較する。（1時間）、課題（1時間）×4回）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本学が目指す「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」育成のうち、「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」の養成を目指すものである。本講義は、現職や卒業後の問題の発見・課題を特定する課題発見力（単元1）、条件・制約を考慮して、課題解決（フィールドワーク）の進捗や採り取りを具体化する構想力（単元2）、適切な手段を用いて収集・調査・整理する情報収集力（単元3）、収集した情報を多角的に分析し、現状を正確に把握する情報分析力（単元4）である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

使用しない

実務経験の有無及び活用

実務経験あり（民間企業の研究所、NPO法人、博物館などの研究・業務補助、住民および家族に生活体験を聞き取る調査の実施、報告書作成など）。これにもつき、フィールドワーク調査過程の実態や注意点などについて授業で解説を行う。

備考

授業の進行具合によって、前後のカリキュラムを流動的に変更する場合がある。